

世の中はインターネットが普及し、インターネットでニュースが見れるようになった現代社会において、従来からの情報源であった新聞や雑誌はこれからも必要とされるだろうか、あるいは不要となるのだろうか。私はこれからも新聞や雑誌がこれからも必要だと考える。確かに、近年では新聞や雑誌の売れ行きが伸び悩み、新聞社や出版社も苦戦しているというが、完全に新聞や雑誌が無くなることはないだろう。その理由をいくつか挙げていこうと思う。

まず第一に、インターネット上には情報が散らばりすぎていて、という欠点がある。知りたい情報があっても、検索をかければ多くの関係ない記事までひっかかってしまうことはままある。新聞や雑誌の内容はトピックスごとに整理されているため、気になる話題がどのページで読めるかが分かりやすい。インターネットでもニュース専門のサイトがあるが、ニュースと関係ないサイトも数多くあり、い

ちいち見ていくのは面倒だ。

第二に、やはりパソコンに長時間向かって画面を見続けることへの肉体的疲労の大きさが挙げられる。とにかく眼が疲れるのである。インターネットのニュースは、知りたい情報を少しチェックするだけなら便利かもしれないが、長時間の閲覧にはやはり不向きである。液晶画面よりは紙媒体の方が目への負担は少ない。また、新聞や雑誌のページをめくるより、インターネットのニュースで次のページをロードする方が時間がかかり、同じ量を読むにしても新聞や雑誌の方が早く読めるのではないだろうか。さらに、こうした性質からも、インターネットのニュースは流し読みされることが多く、読者が常にしっかりと記事を読む人ではないという人は限らない。

以上の理由から、インターネットの普及が今後進んでも、やはり新聞や雑誌が完全になくなることはないだろう。